

ホシガレイ栽培漁業技術開発調査

福島県水産試験場 相馬支場
平成13～16年福島県水産試験場事業報告書

1 部門名

水産業－栽培漁業－その他カレイ類
分類コード 19-05-45000000

4 担当者

島村信也・安岡真司

3 要旨

福島県水産資源支援管理システムを用いてホシガレイの水揚げ量、水揚げ金額について整理するとともに、県内主要8産地市場において人工種苗の混獲率を調査した。本種は主に底びき網やさし網で漁獲され、平成13～16年の水揚げ量及び金額は1.8～2.7トン、6.0～10.6百万円の範囲にあった。また、人工種苗の混獲率は、平成13年の31.3%以降増加を続け、平成16年は91.0%と推定された。これは、天然資源の低下や放流尾数の増加によるものと判断された。

相馬市松川浦及びいわき市小名浜港内(15年度のみ)に全長8cmサイズの人工種苗を放流して追跡調査を行った結果、人工種苗は放流直後から移動・分散を開始し、1週間後には放流地点からは採捕されなくなった。また、放流後1週間以内でほぼ全ての人工種苗が小型甲殻類(主にアミ類)の摂餌を開始し、成長とともに餌料生物はヨコエビ類やヤドカリ類等のより大きなものに移行した。松川浦で6月に全長8cmサイズで放流した人工種苗は、10～12月には全長12～15cm程度に成長した。また、放流後約1年で漁獲加入していたが、雌は放流後約1年半で全長40cm、体重1kg程度に成長していた。

本県に水揚げされる人工種苗の精密調査の結果、平成13～16年に漁獲回収された人工種苗の内、30%程度が宮城県放流魚であると推定された。この結果、平成10～14年に本県で放流した全長8cmサイズの人工種苗の3歳までの回収尾数、回収金額及び回収率はそれぞれ714～2,906尾、73～475万円、5.7～10.5%と推定された。

4 その他の資料等

なし